

1. 山形県における近年の豪雨災害の発生状況

1. 山形県における近年の豪雨災害の発生状況

1.1. 過去の豪雨災害発生状況一覧

表 1.1-1 過去の主な豪雨災害一覧表 (1/2)

No.	発生年月	要因・名称	被害概要
1	2007年9月	台風第9号	8月29日15時に南鳥島近海で発生した台風第9号は、9月7日2時前に強い勢力を保ったまま神奈川県小田原市付近に上陸後、7日昼前に米沢市付近、昼頃山形市付近、昼過ぎには最上にあつて県内を縦断した。山形市蔵王山では、7日に日降水量314mmを観測し、1976年の統計開始以来9月の記録としては、第1位となった。また、最大1時間降水量は、同日08時に56mmを観測し、通年の第1位を更新した。
2	2008年8月	低気圧、 停滞前線	8月14日から15日にかけて低気圧が日本海から青森県付近をゆっくり東へ進み、低気圧からのびる前線が東北北部から日本海に停滞した。庄内地方から最上地方の比較的狭い範囲で雨雲が発達し、狩川の14日の日降水量は318.0mmに達するなど、1976年の統計開始以来第1位となる記録的な大雨となった。
3	2009年10月	台風第18号	9月29日21時にマーシャル諸島近海で発生した台風第18号は、10月8日5時過ぎに強い勢力を保ったまま愛知県知多半島に上陸した。上陸後も北東進し、県内では7日夕方から8日にかけて大雨となり、特に内陸部の村山・置賜・最上の山沿いで雨量が多くなった。7日12時から8日24時までの総雨量は、大蔵村肘折103.0mm、西川町大井沢90.5mm、山形44.0mm、米沢45.5mm、新庄55.5mmを観測した。
4	2012年4月	低気圧	2日9時に華北で発生した低気圧は、3日には急速に発達しながら日本海を北東に進み、低気圧からのびる寒冷前線が3日夜から4日未明に東北地方を通過した。山形県では庄内と最上で暴風となり、飛島で最大風速39.7m/sを観測するなど9地点で観測史上1位を更新した。これら暴風等により山形県では、人的被害や住宅被害、農林水産被害が多数発生している。また、停電や航空、鉄道の運休など交通機関に大きな影響があった。
5	2013年7月	梅雨前線	梅雨前線が日本海から東北地方にのび前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、7月22日の昼過ぎから夜遅くにかけて激しい雨が降り、県内の広い範囲で大雨となった。日降水量が高畠で157.5mm、長井で156.0mm、1時間降水量が楡引で63.0mmを記録するなど、県内の広い範囲で記録的な大雨となった。この大雨により、各地で浸水や冠水、土砂災害が発生し南陽市や白鷹町の1,370世帯に避難勧告・指示が出された。

表 1.1-2 過去の主な豪雨災害一覧表 (2/2)

No.	発生年月	要因・名称	被害概要
6	2014年7月	梅雨前線	東北地方に停滞する梅雨前線に向かって、台風第8号から暖かく湿った空気が流れ込み、7月9日から10日にかけて県南部を中心に大雨となった。降り始めの8日21時から11日09時までの総雨量は、小国で235.5mm、長井で207.5mm、9日の日降水量は長井で183.5mm、上山中山で169.5mmを観測するなど記録的な大雨となった。
7	2015年9月	平成27年9月 関東・東北豪雨	9月7日3時に発生した台風第18号は、愛知県知多半島に上陸した後、日本海に進み、同日21時に温帯低気圧に変わった。この低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、広い範囲で大雨となり、特に関東地方と東北地方では記録的な大雨となった。平成27年9月9日から9月11日にかけて発生した大雨について、気象庁は「平成27年9月関東・東北豪雨」と名称を定めた。
8	2018年8月	前線	前線が東北地方に停滞し、前線上の低気圧が東北北部を通過した。前線や低気圧に向って暖かく湿った空気が流れ込んだため、山形県では、5日朝から雨が降り始め、特に5日昼頃から6日明け方にかけて発達した積乱雲が次々に通過し、庄内や最上を中心に非常に激しい雨となった。酒田大沢では1時間降水量が112.5mmを観測するなど、局地的に猛烈な雨となった。また、降り始めからの総降水量が金山や最上町瀬見では300mmを超えるなど記録的な大雨となった。
9	2018年8月	秋雨前線	秋雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、東北地方は大気の状態が非常に不安定となった。山形県では、特に8月30日夜から31日明け方にかけて非常に激しい雨を観測した。総降水量が庄内町狩川や最上町瀬見で200mmを超えるなど庄内、最上を中心に大雨となった。この大雨により、庄内、最上では床上・床下浸水、道路の冠水や法面崩落、農地冠水などの被害が発生した。
10	2019年10月	令和元年東日本台風	令和元年東日本台風（台風第19号）が12日に伊豆半島に上陸し、関東地方を北東へ進み、13日に福島県から宮城県沖へと抜けた。この台風により24時間降水量が高畠で240.5mm、米沢で205.0mmに達するなど県内では置賜地方を中心に記録的な大雨となった。負傷者3名、全半壊8棟、床上床下浸水164棟、河川氾濫や法面崩落多数。
11	2020年7月	令和2年7月 豪雨	東北地方に前線が停滞し、荒沢の総降水量は267mmに達するなど県内の広い範囲で大雨となった。大雨の峠を越えた後、最上川中流で顕著な河川氾濫が発生した。負傷者1名、全半壊63棟、床上床下浸水705棟、田畑多数冠水。

出典：気象庁 山形地方気象台HP 「山形県の災害履歴」

1.2. 各豪雨災害の発生状況

過去に発生した主要な豪雨災害について、以下の資料に基づき整理した。

- 1) 災害時気象資料（速報）：気象庁 山形地方気象台
- 2) こちら防災やまがた 災害情報：山形県防災くらし安心部 防災危機管理課 HP
- 3) 災害年報：山形県総務部危機管理室総合防災課（H19～H27）
- 4) 水害統計：国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課

(1) 平成19年9月5日～9月7日(平成19年台風第9号による大雨)

8月29日15時に南鳥島近海で発生した台風第9号は、9月7日2時前に強い勢力を保持したまま神奈川県小田原市付近に上陸後、関東地方及び東北地方に大雨や暴風をもたらしながら北上し、8日15時にオホーツク海で温帯低気圧に変わった。台風第9号は、7日昼前に米沢市付近、昼頃山形市付近、昼過ぎには最上にあつて県内を縦断した。7日12時の中心気圧は985ヘクトパスカル、時速45kmの速さで北上した。

県内は台風の接近・通過により6日夕方から7日昼過ぎにかけて大雨となり、特に村山と置賜の山地で多かった。なお、5日村山の山地では、台風からの暖かく湿った空気の流入により、夕方からまとまった雨となった。5日18時から7日24時までの総雨量は、山形市蔵王山で459mm、米沢市西吾妻山212mm、山形111mm、米沢109mm、高畠107mmを観測した。なお、山形市蔵王山では、7日に日降水量314mmを観測し、1976年の統計開始以来9月の記録としては、第1位となった。

また、最大1時間降水量は、同日8時に56mmを観測し、通年の第1位を更新した。

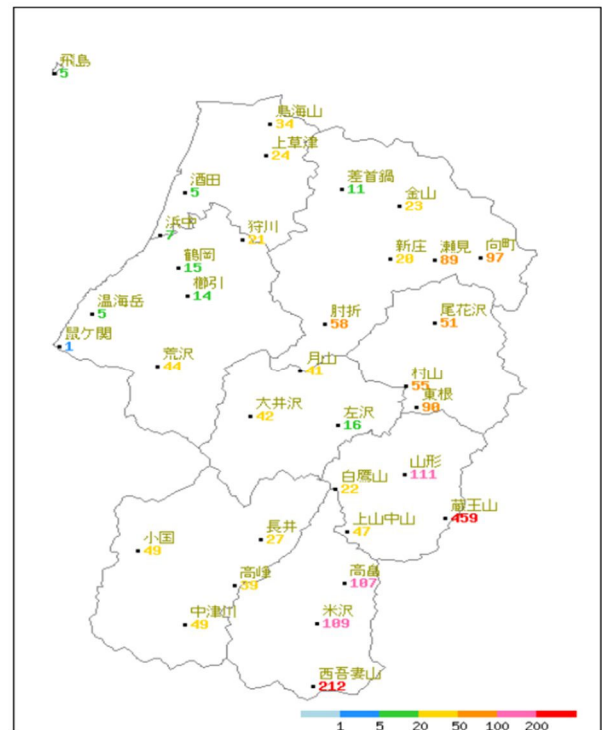


図 1.2-1 アメダス降水量分布図

表 1.2-1 降雨状況

観測地点	1時間雨量	総雨量 (5日18時～7日24時)
蔵王山	55.5 mm (7日8時00分)	459.0 mm
西吾妻山	28.0 mm (7日3時00分)	212.0 mm
米沢	27.5 mm (7日4時00分)	109.0 mm
山形	17.0 mm (7日5時00分)	111.0 mm
高畠	14.0 mm (7日4時00分)	107.0 mm

【被災概要】

表 1.2-2 被災規模

被害状況	
人的被害	重傷者 1 名、軽傷者 1 名
被害額	53.3 億円
一部損壊（住家）	36 棟
床上浸水（住家）	2 棟
床下浸水（住家）	14 棟

(2) 平成 20 年 8 月 14 日～8 月 15 日（日本海低気圧と停滞前線による庄内及び最上地方の大雨）

8 月 14 日から 15 日にかけて低気圧が日本海から青森県付近をゆっくり東へ進み、低気圧からのびる前線が東北北部から日本海に停滞した。前線の南側には、非常に湿った気流が流れ込み、庄内地方から最上地方の比較的狭い範囲で雨雲が発達。動きの遅い前線によって、強い降雨の領域も停滞したため、局地的に非常に激しい雨が断続的に降り大雨となった。庄内町狩川では、14 日の日降水量が 318.0 mm、15 日 1 時から 2 時までの 1 時間降水量が 67.5 mm と、共に 1976 年の統計開始以来第 1 位となる記録的な大雨となった。また、酒田市浜中（庄内空港）では、14 日の日降水量が 233.0 mm、同日 22 時から 23 時までの 1 時間降水量が 82.0 mm と、共に 2003 年の統計開始以来第 1 位となった。大雨による被害は庄内を中心に住家の床上浸水 5 棟、床下浸水 68 棟で、非住家の浸水被害は 144 棟に達した。また、山形自動車道の庄内空港 IC から酒田 IC 間で法面が崩壊し、全面通行止めとなり、農業被害では、水田や畑地の冠水などで農作物等

に大きな被害が発生。その他、道路の冠水や法面崩壊などによる交通規制が発生した。

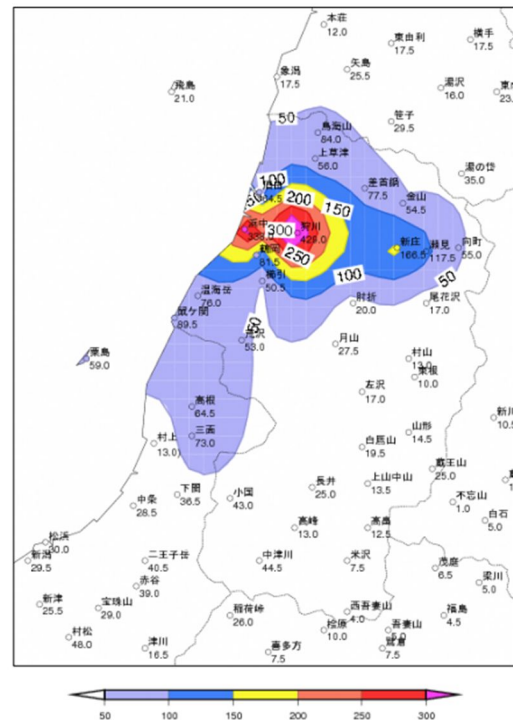


図 1.2-2 アメダス降水量分布図

表 1.2-3 記録的な降雨の観測値（日降水量）

観測地点	降水量	備考
庄内町狩川	318.0 mm (14 日)	観測史上 第 1 位 (1976 年 4 月以来)
酒田市浜中	233.0 mm (14 日)	観測史上 第 1 位 (2003 年 1 月以来)
	109.5 mm (15 日)	観測史上 第 2 位 (")
新庄	145.5 mm (14 日)	観測史上 第 4 位 (1957 年 9 月以来)
最上町瀬見	102.0 mm (14 日)	観測史上 第 5 位 (1976 年 4 月以来)

※参考：24 時間の最大降水量（8 月 14 日 07 時～8 月 15 日 07 時）

庄内町狩川 429.0 mm、酒田市浜中 338.0 mm

表 1.2-4 記録的な降雨の観測値（1時間最大雨量）

観測地点	1時間雨量	備考
庄内町狩川	67.5 mm (15日02時00分)	観測史上 第1位 (1976年4月以来)
	65.0 mm (14日22時30分)	観測史上 第2位 (")
酒田市浜中	82.0 mm (14日23時00分)	観測史上 第1位 (2003年1月以来)
	75.5 mm (15日01時40分)	観測史上 第2位 (")

【被災概要】

表 1.2-5 被災規模

被害状況	
人的被害	被害報告無し
被害額	7.3億円
床上浸水（住家）	5棟
床下浸水（住家）	74棟

(3) 平成21年10月7日～10月8日(平成21年台風第18号による大雨)

9月29日21時にマーシャル諸島近海で発生した台風第18号は、日本の南海上で北東に向きを変え、10月8日5時過ぎに強い勢力を保ったまま愛知県知多半島に上陸した(中心気圧955hPa、最大風速40m/s、最大瞬間風速55m/s)。台風は上陸後も北東進し、中部地方から関東地方北部を経て、勢力はやや弱まったものの暴風域を伴ったまま8日14時頃には福島市付近に達し(中心気圧975hPa、最大風速30m/s、最大瞬間風速45m/s)、夕方には宮城県の東海上に進んだ。このため東日本や東北地方を中心に大雨や暴風など大きな被害が発生した。県内は台風の接近により7日夕方から8日にかけて大雨となり、特に内陸部の村山・置賜・最上の山沿いで雨量が多くなった。また、台風の接近に伴い庄内を中心に風が強まった。7日12時から8日24時までの総雨量は、大蔵村肘折103.0mm、西川町大井沢90.5mm、山形44.0mm、米沢45.5mm、新庄55.5mmを観測した。

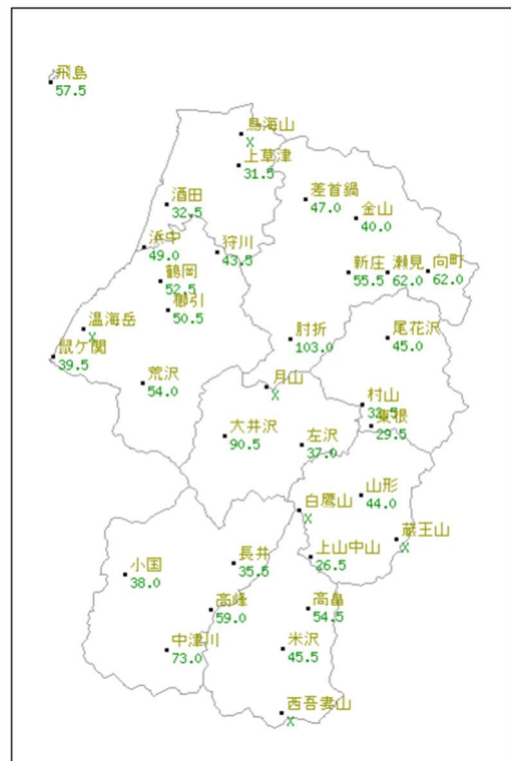


図 1.2-3 アメダス降水量分布図

表 1.2-6 降雨状況 (mm)

観測地点	1時間あたりの最大降雨量
向町	13.5 mm (8日 14時 00分)
肘折	13.0 mm (8日 14時 00分)
大井沢	12.0 mm (8日 13時 00分)
新庄	11.5 mm (8日 13時 00分)
瀬見	11.0 mm (8日 14時 00分)

観測地点	総雨量 (7日 12時～8日 24時)
肘折	103.0 mm
大井沢	90.5 mm
山形	44.0 mm
米沢	45.5 mm
新庄	55.5 mm

【被災概要】

表 1.2-7 被災規模

被害状況	
人的被害	被害報告無し
被害額	31.1 百万
一部損壊 (住家)	12 棟
床下浸水 (住家)	3 棟

(4) 平成 24 年 4 月 3 日～4 月 4 日 (急速に発達した低気圧の影響)

2 日 9 時に華北で発生した低気圧は、3 日には急速に発達しながら日本海を北東に進んだ。この低気圧からのびる寒冷前線が 3 日夜から 4 日未明に東北地方を通過した。県内では庄内と最上で暴風となり、飛島で最大風速 39.7m/s を観測するなど 9 地点で観測史上 1 位を更新した。また、最大瞬間風速は、飛島 51.1m/s、酒田 41.4m/s、小国 42.3m/s を観測した。国土交通省港湾局の波浪計データによると酒田港で 10m を超える有義波高を観測するなど猛烈なしけとなった。

【被災概要】

表 1.2-8 被災規模

被害状況	
人的被害	死者 1 人 重傷者 2 人 軽傷者 11 人
被害額	52.3 億円
一部損壊 (住家)	734 棟
床下浸水 (住家)	1 棟

(5) 平成 25 年 7 月 22 日(梅雨前線による大雨)

梅雨前線が日本海から東北地方にのび前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となった。このため、7月22日の昼過ぎから夜遅くにかけて激しい雨が降り、県内の広い範囲で大雨となった。日降水量が高畠で157.5mm、長井で156.0mm、1時間降水量が榎引で63.0mmを記録するなど、県内の広い範囲で7月17日から18日の低気圧による大雨に続き記録的な大雨となった。

表 1.2-9 記録的な降雨の観測値(日最大降水量)

観測地点	降水量	備考
高畠	157.5 mm (22日)	年間を通じて第1位 (1977年4月以来)
長井	156.0 mm (22日)	7月として 第1位 (1976年4月以来)

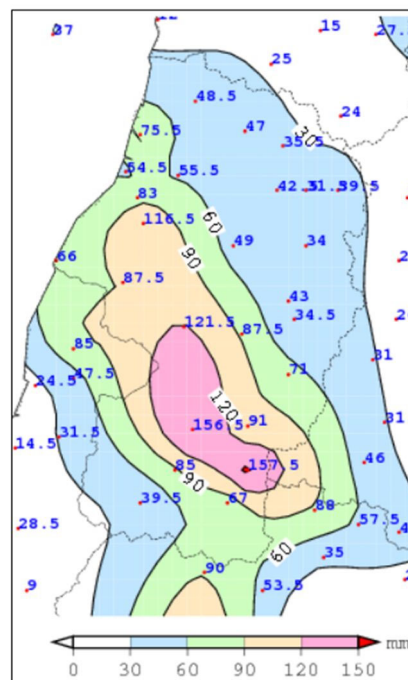


図 1.2-4 アメダス降水量分布図

表 1.2-10 記録的な降雨の観測値(時間最大雨量)

時間	観測地点	1時間雨量	備考
1時間	榎引	63.0 mm (22日 16時45分)	年間を通じて第1位 (1977年4月以来)
3時間	榎引	101.0 mm (22日 17時10分)	年間を通じて第1位 (1977年4月以来)
	高畠	115.0 mm (22日 21時00分)	年間を通じて第1位 (1977年4月以来)
	左沢	68.5 mm (22日 18時50分)	7月として 第1位 (1976年4月以来)
	米沢	50.5 mm (22日 21時40分)	7月として 第1位 (1976年1月以来)
24時間	高畠	157.5 mm (23日 13時00分)	年間を通じて第1位 (1977年4月以来)
	長井	156.0 mm (23日 13時00分)	7月として 第1位 (1976年4月以来)

【被災概要】

表 1.2-11 被災規模

被害状況	
人的被害	行方不明1名 軽傷者3名
被害額	154.7億円
全壊 (住家)	3棟
半壊 (住家)	8棟
一部損壊 (住家)	3棟
床上浸水 (住家)	49棟
床下浸水 (住家)	388棟

(6) 平成 26 年 7 月 9 日～10 日(梅雨前線による大雨)

東北地方に停滞する梅雨前線に向かって、台風第 8 号から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。このため、県内では 7 月 9 日から 10 日にかけて雷を伴う非常に激しい雨が降り、県南部を中心に大雨となった。降り始めの 8 日 21 時から 11 日 09 時までの総雨量は、小国で 235.5 mm、長井で 207.5 mm を観測した。9 日の日降水量は長井で 183.5 mm、上山中山で 169.5 mm を観測するなど記録的な大雨となった。

この大雨により、各地で土砂災害や洪水、浸水、冠水などの災害が発生し、南陽市や長井市、山形市などの約 8,000 世帯に避難勧告・指示が出された。

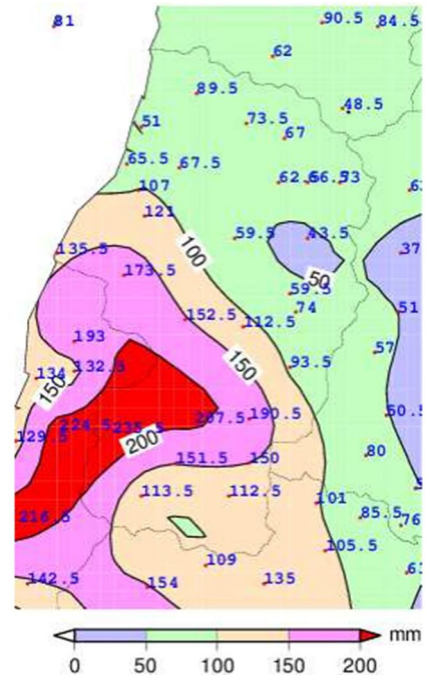


図 1.2-5 アメダス降水量分布図

表 1.2-12 記録的な降雨の観測値(日最大降水量)

観測地点	降水量	備考
長井	183.5 mm (9 日)	年間を通じて第 1 位 (1976 年 4 月以来)
上山中山	169.5 mm (9 日)	年間を通じて第 1 位 (2006 年 4 月以来)
飯豊町高峰	121.0 mm (9 日)	7 月として 第 1 位 (1976 年 7 月以来)
米沢	102.0 mm (9 日)	7 月として 第 1 位 (1976 年 7 月以来)

表 1.2-13 記録的な降雨の観測値(時間最大雨量)

時間	観測地点	1 時間雨量	備考
1 時間	上山中山	54.5 mm (9 日 23 時 14 分)	年間を通じて第 1 位 (2006 年 4 月以来)
3 時間	長井	106.5 mm (10 日 0 時 10 分)	年間を通じて第 1 位 (1976 年 4 月以来)
	上山中山	94.0 mm (10 日 0 時 50 分)	年間を通じて第 1 位 (2006 年 4 月以来)
24 時間	長井	195.5 mm (10 日 2 時 30 分)	年間を通じて第 1 位 (1976 年 4 月以来)
	上山中山	184.5 mm (10 日 4 時 30 分)	年間を通じて第 1 位 (2006 年 4 月以来)

【被災概要】

表 1.2-14 被災規模

被害状況			
人的被害	軽傷者 1 名	一部損壊 (住家)	1 棟
被害額	約 78.4 億円	床上浸水 (住家)	195 棟
全壊・流失 (住家)	1 棟	床下浸水 (住家)	422 棟
半壊 (住家)	6 棟		

(7) 平成 27 年 9 月 6 日から 11 日にかけての大雨

9 月 6 日から 8 日にかけて、前線が東シナ海から本州南岸を通過して三陸沖へのびていた。9 日は台風第 18 号が日本の南から北上し、東海地方を通過して日本海へ進んだ。10 日から 11 日にかけては、台風第 18 号から変わった低気圧が日本海を北上し、また、台風第 17 号が日本の東海上を北上した。一方、高気圧がオホーツク海から千島の東へ移動していた。

山形県内では、台風 18 号から変わった温帯低気圧が日本海中部を北東へ進むとともに、台風 17 号が日本の東を北上し、11 日にかけて大雨となった。

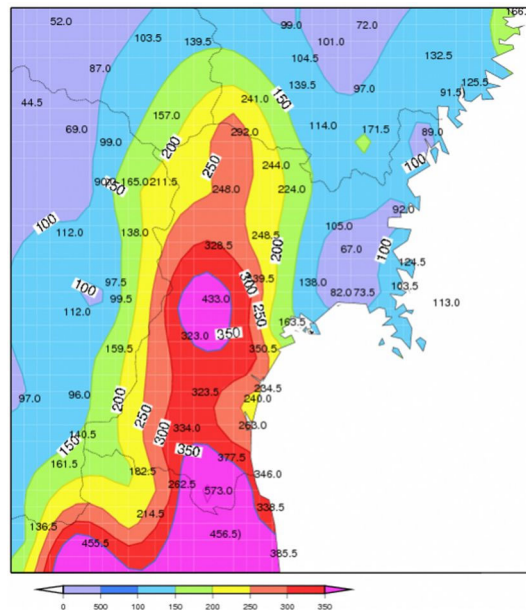


図 1.2-6 総降水量分布図

表 1.2-15 主要地点の総雨量（6 日 0 時～11 日 16 時までの総雨量）

観測所	総雨量	観測所	総雨量
最上町向町	211.5mm	西川町大井沢	184.5mm
飯豊町中津川	178.5mm	米沢	161.5mm
山形	159.0mm	最上町瀬見	165.5mm
小国	142.0mm	高畠	140.5mm
尾花沢	138.0mm		

【被災概要】

表 1.2-16 被災規模

被害状況	
人的被害	重傷者 1 名
被害額	約 12.5 億円
床上浸水（住家）	13 棟
床下浸水（住家）	17 棟

(8) 平成 30 年 8 月 5 日から 6 日の大雨

前線が東北地方に停滞し、前線上の低気圧が東北北部を通過した。前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、東北地方は大気の状態が非常に不安定となった。

山形県では、5 日朝から雨が降り始め、特に 5 日昼頃から 6 日明け方にかけて発達した積乱雲が次々に通過したため、庄内や最上を中心に非常に激しい雨となり、酒田大沢では 1 時間降水量が 112.5mm を観測するなど、局地的に猛烈な雨となった。また、降り始めからの総降水量が金山や最上町瀬見では 300mm を超えるなど記録的な大雨となった。真室川町差首鍋では 5 日 14 時 11 分までの 1 時間に 72.0mm、鶴岡では 5 日 20 時 22 分までの 1 時間に 75.5mm の降水量を観測したほか、24 時間降水量は、金山で 312.5mm、最上町瀬見で 309.5mm など、9 地点で観測史上 1 位の値を更新した。

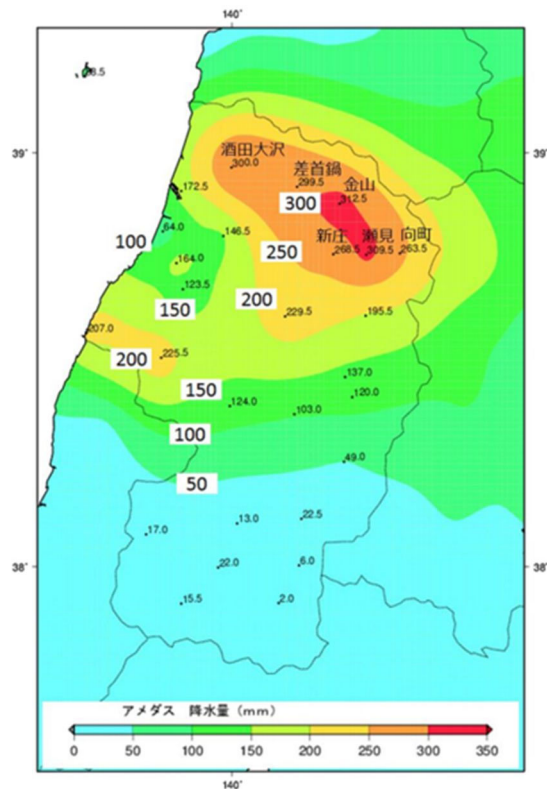


図 1.2-7 総降水量分布図

表 1.2-17 主な地点の総降水量 (8 月 5 日 6 時～6 日 18 時) (単位 : mm)

市町村	観測地点	総降水量	市町村	観測地点	総降水量
金山町	金山	312.5	最上町	瀬見	309.5
酒田市	酒田大沢	300.0	真室川町	差首鍋	299.5
新庄市	新庄	268.5	最上町	向町	263.5
大蔵村	肘折	229.5	鶴岡市	鼠ヶ関	207.0
尾花沢市	尾花沢	195.5	酒田市	酒田	172.5
鶴岡市	鶴岡	164.0	庄内町	狩川	146.5

表 1.2-18 主な地点の日最大 1 時間降水量 (8 月 5 日～6 日) (単位 : mm)

市町村	観測地点	日最大 1時間 降水量	起 時	市町村	観測地点	日最大 1時間 降水量	起 時
酒田市	酒田大沢	112.5	5 日 13時40分	新庄市	新庄	61.5	5 日 22時38分
鶴岡市	鶴岡	75.5	5 日 20時22分	金山町	金山	59.0	5 日 14時25分
真室川町	差首鍋	72.0	5 日 14時11分	庄内町	狩川	57.5	5 日 18時23分
酒田市	酒田	71.5	5 日 18時05分	最上町	向町	56.0	5 日 14時13分
鶴岡市	鼠ヶ関	70.0	5 日 22時47分	鶴岡市	荒沢	45.5	6 日 04時53分
大蔵村	肘折	67.5	6 日 4時21分				

【被災概要】

表 1.2-19 河川被災箇所数

区分		地点
国管理河川		最上川 越水 2箇所（新庄市、戸沢村）
県管理河川	一般被害箇所	被害箇所数 6河川 6件（越水、内水）
	河川施設被害	被害箇所数 82河川 193件（護岸損壊等）
	県管理ダム被害	被害箇所数 2件（流木堆積等）

表 1.2-20 被災規模

被害状況	
人的被害	重傷者 1名
被害額	約 24.0 億円
床上浸水（住家）	29 棟
床下浸水（住家）	466 棟

(9) 平成 30 年 8 月 29 日～9 月 1 日の大雨

黄海から日本海を通過して日本の東にのびる秋雨前線が、8月30日から9月1日にかけて東北地方をゆっくり南下した。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、東北地方は大気の状態が非常に不安定となった。

山形県では、8月29日夜から9月1日の日中まで雨が断続的に降り続き、特に8月30日夜から31日明け方にかけて庄内や最上では激しい雨となり、金山町や真室川町、最上町では1時間に50mmを超える非常に激しい雨を観測した。総降水量が庄内町狩川や最上町瀬見で200mmを超えるなど庄内、最上を中心に大雨となった。なお、最上町向町では8月31日04時20分までの3時間に104.0mmを観測し、観測史上1位の値を更新した。

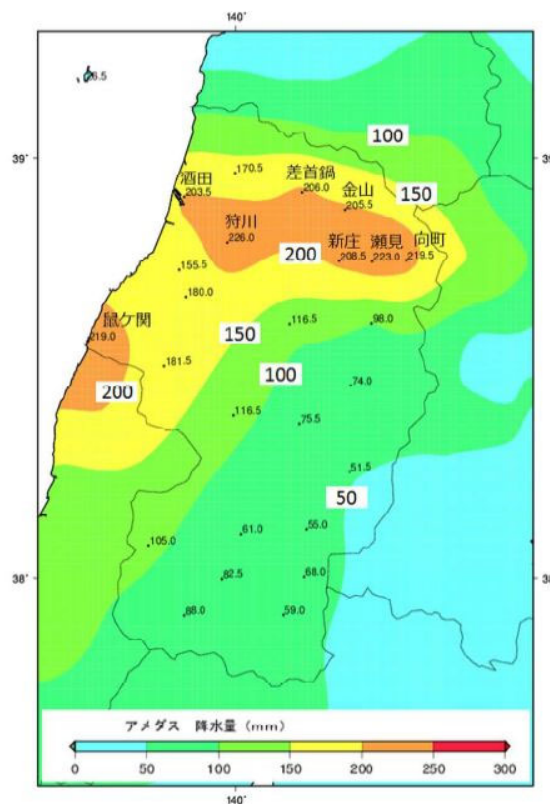


図 1.2-8 総降水量分布図

表 1.2-21 主な地点の総降水量（8月29日18時～9月1日18時）（単位：mm）

市町村	観測地点	総降水量	市町村	観測地点	総降水量
庄内町	狩川	226.0	最上町	瀬見	223.0
最上町	向町	219.5	鶴岡市	鼠ヶ関	219.0
新庄市	新庄	208.5	真室川町	差首鍋	206.0
金山市	金山	205.5	酒田市	酒田	203.5
鶴岡市	荒沢	181.5	鶴岡市	櫛引	180.0
酒田市	酒田大沢	170.5	鶴岡市	鶴岡	155.5

表 1.2-22 主な地点の日最大1時間降水量（8月30日～31日）（単位：mm）

市町村	観測地点	日最大1時間降水量	起 時
鶴岡市	鼠ヶ関	34.5	8月30日 22時55分
鶴岡市	荒沢	32.5	8月30日 23時05分
金山町	金山	56.0	8月31日 01時09分
真室川町	差首鍋	53.5	8月31日 02時43分
最上町	向町	51.0	8月31日 03時19分
庄内町	狩川	45.0	8月31日 03時23分
最上町	瀬見	40.5	8月31日 02時50分
酒田市	酒田	38.5	8月31日 01時50分
新庄市	新庄	37.5	8月31日 03時42分

【被災概要】

表 1.2-23 災害発生状況（河川）

区分		地点
国管理河川		被害なし
県管理河川	一般被害箇所	被害箇所数 15 河川 18 箇所（越水等）
	河川施設被害	被害箇所数 44 河川 103 箇所（護岸損壊等）

表 1.2-24 被災規模

被害状況	
人的被害	なし
被害額（農林水産被害のみ）	約 7.2 億円
床上浸水（住家）	7 棟
床下浸水（住家）	144 棟

(10) 令和元年10月11日～13日（令和元年台風第19号による大雨）

10月6日3時に南鳥島近海で発生した台風第19号は、西へ進みながら急速に発達し、7日18時には猛烈な勢力となった。10日21時には父島の西南西で非常に強い勢力に変わって北上し、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。台風はその後も勢力を維持したまま関東地方を北東へ進み、13日未明には福島県を通過して明け方には宮城県沖に抜け、13日12時に北海道の南東海上で温帯低気圧となった。この台風により、東日本や北日本を中心に広い範囲において記録的な大雨となり、1都12県（東北地方では福島県、宮城県、岩手県）に対し大雨特別警報が発表された。

山形県では、前線と台風接近に伴い11日から13日にかけて雨が降り続き、11日15時から13日9時までの総雨量は、高島 244.5mm、米沢 207.5mm、大蔵村肘折 189.5mm、山形 171.0mm を観測した。なお、12日の日降水量は、高島 218.0mm、米沢 185.0mm など、4地点で観測史上1位を更新した。

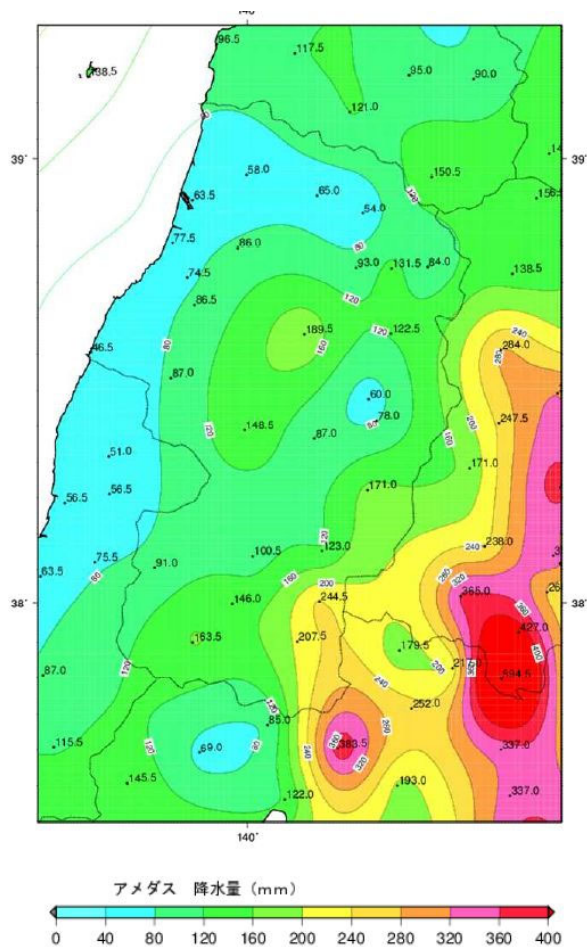


図 1.2-9 総降水量分布図

表 1.2-25 主な地点の総降水量（10月11日15時～13日15時）（単位 mm）

市町村	観測地点	総降水量	市町村	観測地点	総降水量
高島町	高島	244.5	山形市	山形	171.0
米沢市	米沢	207.5	飯豊町	中津川	163.5
大蔵村	肘折	189.5	西川町	大井沢	148.5

表 1.2-26 主な地点の日最大1時間降水量（10月11日～13日）（単位 mm）

市町村	観測地点	日最大1時間降水量	起 時	市町村	観測地点	日最大1時間降水量	起 時
高島町	高島	36.5	12日 21時41分	酒田市	飛島	24.0	13日 00時31分
大蔵村	肘折	26.5	12日 19時35分	山形市	山形	24.0	12日 22時35分
米沢市	米沢	26.0	12日 21時52分	尾花沢市	尾花沢	22.0	13日 00時07分
最上町	瀬見	26.0	13日 00時20分	西川町	大井沢	21.0	12日 19時05分

【被災概要】

表 1.2-27 災害発生状況（河川）

区分		地点
国管理河川		被害なし
県管理河川	一般被害箇所	被害箇所数 10 河川 8 箇所（溢水、越水、内水被害）
	河川施設被害	被害箇所数 60 河川 128 箇所（護岸損壊等）
市町村管理河川	河川施設被害	被害箇所数 33 河川 59 箇所（護岸損壊等）

表 1.2-28 被災規模

被害状況	
人的被害	重傷者 2 名 軽傷者 1 名
被害額（商工除く）	約 55.7 億円
半壊（住家）	4 棟
一部破損（住家）	34 棟
床上浸水（住家）	65 棟
床下浸水（住家）	98 棟

(11) 令和2年7月26日～29日（梅雨前線による大雨）

梅雨前線が東北地方に停滞し、前線上の低気圧が28日に日本海から東北地方接近した。前線や低気圧に向かって暖く湿った空が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり28日を中心に大雨となった。

山形県では、26日午後から29日午前にかけて雨が降り続き、26日16時から29日12時までの総降水量は、鶴岡市荒沢で267.0mm、西川町大井沢で249.0mm、小国で246.0mm、長井で236.0mm、大蔵村肘折で216.5mm、山形で187.0mmを観測した。なお、28日の降水量は西川町大井沢215.0mm、長井203.0mm、大蔵村肘折183.5mmなど5地点で観測史上1位を更新した。

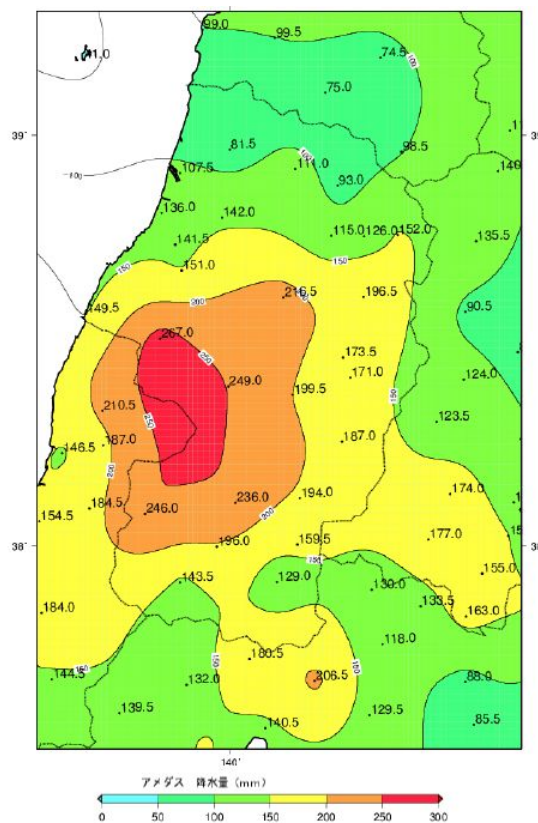


図 1.2-10 総降水量分布図

表 1.2-29 各地点の総降水量（7月26日16時～29日12時）（単位：mm）

市町村	観測地点	総降水量	市町村	観測地点	総降水量
鶴岡市	荒沢	267.0	鶴岡市	櫛引	151.0
西川町	大井沢	249.0	鶴岡市	鼠ヶ関	149.5
小国町	小国	246.0	飯豊町	中津川	143.5
長井市	長井	236.0	庄内町	狩川	142.0
大蔵村	肘折	216.5	鶴岡市	鶴岡	141.5
大江町	左沢	199.5	酒田市	浜中	136.0
尾花沢市	尾花沢	196.5	米沢市	米沢	129.0
飯豊町	高峰	196.0	最上町	瀬見	126.0
上山市	上山中山	194.0	新庄市	新庄	115.0
山形市	山形	187.0	真室川町	差首鍋	111.0
村山市	村山	173.5	酒田市	酒田	107.5
東根市	村山	171.0	金山町	金山	93.0
高畠町	高畠	159.5	酒田市	酒田大沢	81.5
最上町	向町	152.0	酒田市	飛島	41.0

表 1.2-30 主な地点の日最大1時間降水量（7月26日16時～29日12時）（単位：mm）

市町村	観測地点	日最大1時間降水量	起 時	市町村	観測地点	日最大1時間降水量	起 時
鶴岡市	鶴岡	44.0	28日 13時01分	鶴岡市	櫛引	32.5	28日 12時51分
鶴岡市	荒沢	37.5	28日 13時42分	西川町	大井沢	32.5	28日 15時02分
大蔵村	肘折	36.0	28日 15時02分	酒田市	浜中	32.0	28日 12時50分
尾花沢市	尾花沢	36.0	27日 03時17分	庄内町	狩川	31.5	28日 13時08分

【被災概要】

表 1.2-31 災害発生状況（河川）

区分	地点	
国管理河川	最上川 越水 4箇所（村山市、大石田町2箇所、大蔵村） 最上川 溢水 5箇所（新庄市、大石田町、河北町2箇所、大江町）	
県管理河川	一般被害箇所	被害箇所数 52 河川 69箇所（越水等）
	河川施設被害	被害箇所数 133 河川 605箇所（護岸損壊等）
市町村管理河川	河川施設被害	被害箇所数 157 河川 222箇所（護岸損壊等）

表 1.2-32 被災規模

被害状況	
人的被害	重傷者1名
被害額	約432億円
全壊（住家）	1棟
大規模半壊（住家）	7棟
半壊（住家）	55棟
一部破損（住家）	7棟
床上浸水（住家）	149棟
床下浸水（住家）	555棟